
ありがとうを、君に

r y o

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとうを、君に

【Nコード】

N2568E

【作者名】

ryo

【あらすじ】

好きな人がいました。叶わない思いでした。苦しくて、悲しくて。でも、傍にはいつもあなたがいてくれました。

「馬鹿だな、お前・・・」

呆れたようなその声は、いつものからかつような声色じゃなく。

「分かってるよ」

そう答えて、私は笑みを浮かべ。

上手に笑えたかどうか分からない。

何かを言う前に、突然視界が大きな掌てのひらで遮られた。

それが誰の掌かなんて一目瞭然で。

別に泣くつもりなんか全くなかったけど。

大きな掌がとつてもあたたかくて、心地よかったから。

「・・・やっぱり、キツイなあ」

つい。

弱音を吐いてしまった。

後ろからまわされた腕の力に引き寄せられるまま、力の抜けた身体をそつと預ける。

「ちゃんと笑えてた？」

「ああ？」

「不自然じゃなかったかな？」

「・・・」

服を掴んだ指に思わず力が入る。

「分かってたことだから」

ただ、思ってたよりずっと苦しくて痛かっただけ。

あの人は絶対に私を選ばない。

私はただの幼なじみ。

そのポジションはこれから先もずっと変わらない。

自分の思いを告げれば何か変わっただろうか？

告げたことで何かが変わるとしたら。

幼馴染みという、無条件であの人の近くに居られるその立場が壊れるだろうということ。

「後悔なんかしてない」

そう。

後悔なんてない。

してはいけない。

だって、自分で決めたこと。

「・・・そうか」

一言。

そして、軽くポンポンと頭を撫でてくれる。

言葉少ななこの友人は、今日もただ傍にいてくれる。

その優しさがどうしようもなくあたたかくて、思わず目尻にじんわり浮かんでくる。

なんでそんなに優しいかなあ。

目尻から盛り上がった涙が、つーっと頬を滑っていく。

悲しくて泣いてるんじゃないから。

この掌があつたかくて、心地よかつたからだから。

きつと、濡れた頬の感触で、彼は気づくだろう。

でも、きつと。

彼は何も言わない。

ただただ、そこに居てくれる。

黙して、ずっと、支えてくれる。

この涙が止まったら、ありがとうを言おう。

今の自分の、ありつたけの感謝の気持ちを、彼に送ろう。

きつと。

きつと。

笑顔で言える。

だから。

もう少しだけ、待っていて下さい。

(後書き)

テーマは『失恋』。本当に短く、そして拙い文章でお恥ずかしい・
。それでも一生懸命書きました。

登場人物の名前さえ出てこなかったのですが、最後まで読んでいた
だけましたら幸せです。

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2568e/>

ありがとうございます、君に

2011年1月15日16時25分発行